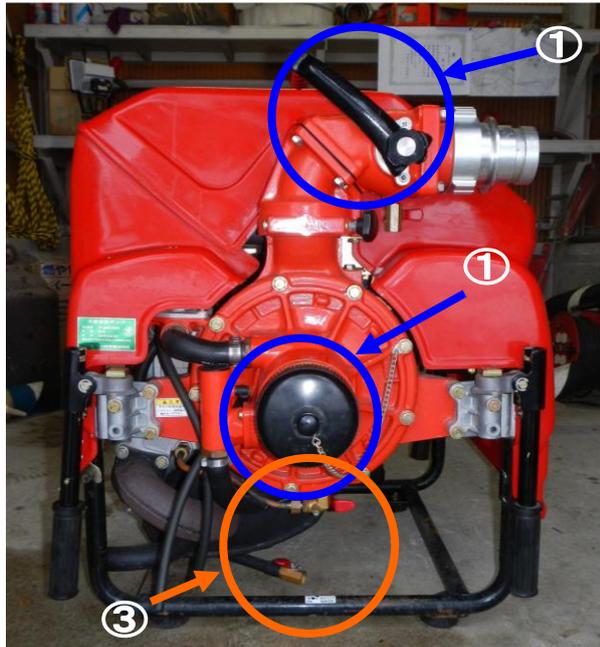


【始動前点検】



① 各部のゆるみはないか。



放口バルブ

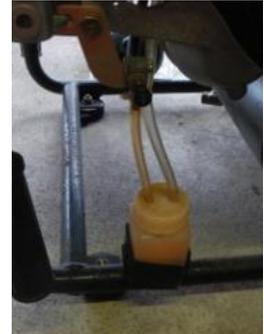


吸管結合部

② 燃料漏れはないか。



オーバーフローパイプ、
パイプ取り付け部



③ 各排水バルブは閉じてあるか



ポンプ排水バルブ

マフラ排水バルブ

【燃料・オイル等】

④ 適量入っているか



燃料ゲージ



エンジンオイル
タンクゲージ

ガバナ室オイル、
ガバナオイルゲージ



【エンジン始動】



⑤ 始動性はいいか



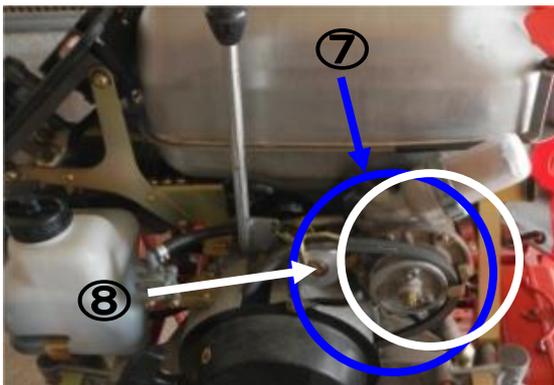
* 留意事項 *

- ・引きが重くなった位置から一気に引く。
- ・スタータロープの劣化も合わせて点検する。

【真空・吸水状況】



⑥ 真空レバーの作動はいいか



⑦ Vベルトの滑りはないか



⑧ ポンプの異常はないか

⑨ 落水はないか



* 留意事項 *

- ・真空レバーを真空側に操作したら、必ず放水側に戻すこと。
- ・真空レバーを操作中に異音や煙が上る場合、また、なかなか吸水できない場合は、Vベルト滑りの原因が大きい。

【放水状況】



⑩ エンジン異常(異音、振動)はないか

⑪ 筒先ノズルの作動性はいいか



噴霧ノズルの確認

【スロットル調整】



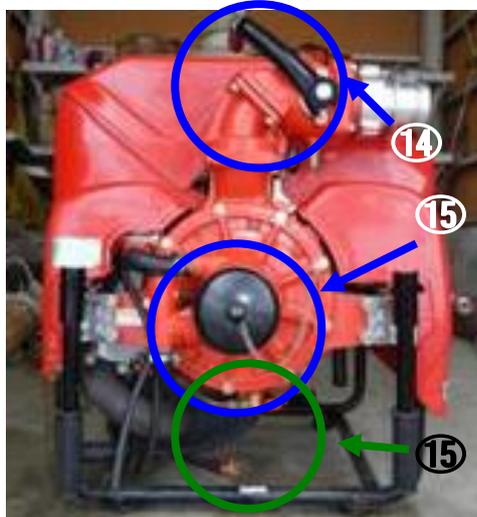
⑫ 高速・低速のレスポンスはいいか



⑬ 圧力計の振れはいいか



【エンジン停止】



⑭ 放口弁ハンドルは
確実に閉まるか



⑮ 各部からの
水漏れはないか



* 留意事項 *

・吸管結合部からの水漏れは
パッキン劣化の可能性大。
真空形成にも支障をきたす。



【完全排水】



⑯ 各部のコック、バルブを開き完全に排水したか



*** 留意事項 ***

・現場引き上げ時に水抜きをしても
帰庫後の積載車格納時に、再度
排水ドレンをする。

【格納・保管】



⑰ 不凍液の注入をしたか
(冬期間)



⑱ 燃料を満タンにしたか



エンジン
オイル

⑲ キャブレタ内の燃料を抜いたか



⑳ 吸管ストレーナのゴミ詰まりはないか



*** 留意事項 ***

・キャブレタの燃料ドレンは、
燃料コックを閉じたのを確認後
行なうこと。

《最終点検項目》 ポンプは汚れていないか！？

トーハツ VC42・VC52 不凍液注入方法マニュアル

【完全排水】



- ① エンジン停止状態にて、ポンプ排水コック及び、マフラ排水コック、放水弁排水コックから排水を完全に行い、吸水口キャップを閉じる。



【ビニールパイプ結合】



- ② ドレンコック（ポンプ及びマフラ排水コック）を「開」のまま付属のビニールパイプを結合する



- ③ 不凍液（180～200ml.）の入っている容器にビニールパイプを入れる。

【エンジン始動・真空操作】



- ④ スロットルダイヤルを「始動▼吸水」の位置にしてエンジンを始動し、真空ポンプを作動させながら不凍液を吸入させる。



- 不凍液吸入後も空気を吸込ませ不凍液を各部に行きわたらせるため、真空ポンプを約 30 秒作動させる。

【エンジン停止】



- ⑤ エンジンを停止し、すべての排水コックを閉じる。

【放口への注入】



- ⑥ 放口弁ハンドルを閉じ、放口弁のボールコックにもオイル差し等で不凍液を注入する。

【オイルレス真空ポンプへの注入】



- ⑦ フロントカウルを外し、真空ポンプのストレーナカップとストレーナを取外しストレーナガイドへ不凍液原液50mlを注入する。
注入後、ストレーナとストレーナカップを取り付ける。

《最後に》 飛び散った真空ポンプオイルをきれいに拭き取る！！